

学校関係者評価委員会よりの報告を受けて

日頃より本校の教育活動へのご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。また、学校関係者評価アンケートへのご協力ありがとうございました。この度、学校関係者評価委員の方々より「学校関係者評価委員会報告」を受けました。その報告書をもとに課題や改善方法、令和7年度の重点項目を検討いたしました。

回答には、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」の5項目があります。「学校関係者評価委員会の報告」での肯定率は、「とても思う」「思う」の合計を上記5項目すべての合計で割ったものとしておりますが、ここでは、実質の肯定回答率と「わからない」の回答率を示すために、「とても思う」「思う」の合計を「わからない」を除く4項目の合計で割ったものを肯定回答率としております。その差が「わからない」の回答率を表しております。

I 重点目標について

1 令和6年度の重点目標への取り組みと課題について

(1) 『人権尊重の教育を基盤に多様な個性がいかされる教育の推進を図る』

「他者への思いやり」については、生徒・保護者ともによい評価を得られております。幸せな人生を歩むことができる基礎を培うためには、教育の場において人権尊重を基盤とした環境が必須のものであると考えます。教師が生徒に優しい心で接することで、生徒も優しい心で接するようになります。その環境が構築しつつあることは大変喜ばしいことと思います。

生徒の学校生活での達成感は向上いたしました。達成感という漠然とした感覚は、学習・行事・特別活動などを総合したものでありますが、今年度は学習に向かう姿勢がどの学年も高くなったと思います。週一度校内を巡回し授業を見ておりますが、教師の話にしっかりと耳を傾け課題に落ち着いて取り組んでいる生徒の様子が伺えます。一方、保護者の肯定率が低くなってしまったのは、公開授業で外部講師の授業や行事のまとめの発表会などが多く、普段の授業で真剣に取り組む生徒の様子をじっくりと見ていただくことが少なかったからではないかと思えます。本校生徒は、行事への取組も活発ですが学習への取組も素晴らしいです。それを実感していただけるように参加率を含めた公開授業の工夫に取り組みたいと思います。

【実質の肯定回答率】

生徒の「わたしは、他者を思いやろうとしている。」 90.1%、

保護者の「わが子は、他者を思いやろうとしていると思う。」 92.4%

生徒の「学校生活は、達成感がある。」 82.3%

保護者の「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。」 77.1%

保護者の「外部教師による授業は、視野を広げることにつながり、よい取り組みだと思う。」 96.1%

地域の「外部教師による授業は、視野を広げることにつながり、よい取り組みだと思う。」 100%

(2) 『よりよい教育を通してよりよい社会を創るため「社会に開かれた教育課程」を実現する』

平成28年の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」において、教育課程は学校教育のためだけの教育内容ではなく、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという目的を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していく必要があると謳われていることをもとに設定いたしました。「社会に開かれた教育課程」にするために、今年度はまず教育課程の真髄であります教育目標の前文の趣旨を地域と共有することに取り組みました。

外部講師による授業など、地域の方に学校に来ていただくことについては成果があり肯定回答率も高いです。また昨年度は地域との協働が「キャリア教育アワード」で表彰され、今年度も地域での活動をSDG'sの学習につなげ世田谷区の児童生徒表彰を授与いたしました。しかし、生徒会等の限られた生徒での活動であり、全生徒の地域での活動の意識が低いことが課題であります。地域・保護者・生徒・教師が一つとなって地域との連携の絆を深めることが大切と思っております。

【実質の肯定回答率】

生徒の「総合的な学習の時間で学んだことは、自分の生活や将来に活かせると思う。」 81.6%

生徒の「学ぶことが楽しい。」 74.5%

生徒の「わたしは富士中生の一員として、地域のボランティア活動に関わりたいと思う。」 69.2%

(3) 『「キャリア・未来デザイン教育」の実現を図る』

「キャリア・未来デザイン教育」は、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」といった基礎的・汎用的能力を育て、生徒が自己実現を図る手助けをする教育であると私は理解しております。「特に未来デザイン」に関して申しますと、中学校時代の発達課題が自我同一性の獲得の初期であることを鑑みて「自己理解」が大切であると思えます。自己の長所・短所を理解し受け入れることで、他者を受け入れる素養ができます。「自己理解」は、あらゆることにチャレンジし、あらゆる場所でたくさんの人と触れ合うことで培っていきます。それを総合的な学習の時間等の授業で総括して、進路や将来の仕事について考えさせております。

本校では、各種検定等の教育課程外の取組を地域の方に協力を得て行っております。これにつきましては、生徒や保護者の方の高い肯定回答率が得られております。しかし、肝心な教育課程内の教育活動についてそれよりも低い値となっていることが課題と考えます。また、保護者の「本校は、子どもの進路や将来について考える授業がある。」で「わからない」と答えた方が 25.6%とおよそ4分の1に上っており、(1)で述べました公開授業の工夫の必要性がここにも見られるように思います。三者面談では、キャリア・パスポートを活用し生徒の非認知能力について共有を図っております。「キャリア・

未来デザイン教育」の意義のさらなるご理解をよろしくお願いいたします。

【実質の肯定回答率】

生徒の「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある。」 72.3%

保護者の「本校は、子どもの進路や将来について考える授業がある。」 82.0%

生徒の「漢字検定、数学検定、英語検定のためのキャリアアップ講座や放課後学習・学習相談は富士中生にとって役立つ取り組みだと思う。」 94.4%

保護者の「漢字検定、数学検定、英語検定の校内受験の機会を設ける、放課後学習や学習相談日を設ける。これらの取り組みがあるのは好ましい。」 97.5%

(4)『教育デジタルトランス・フォーメーション (DX) の推進を実現する。』

タブレットを活用した授業風景が多くみられるようになりました。生徒が効率的に学べ、個に応じた学習を進めることができるように、校内や校外での研修をそれぞれの教職員が自らの授業に生かし工夫しております。

授業は、「内容」と「活動」で構成されます。「内容」(生徒に身に付けさせたいこと)があり、その達成に適切な「活動」を考えます。DXの推進は「活動」を手助けするものであり内容ではないことに留意しながら、上手な活用を教職員間で共有したいと思います。生徒の学びを深くするためには、まず自分の考えをもつことが必要です。タブレットの使用と沈黙思考での個人作業の適正なバランスで、自ら課題を解決する場面を更に充実したいと思います。

【実質の肯定回答率】

生徒の「先生は、課題について、自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中で取っている。」 90.3%

生徒の「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」 87.7%

教員の「私(本校)は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」 95.0%

保護者の「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にしたい授業をしている。」 78.8%

(5)『教職員のパフォーマンスを最大限に生かす学校を構築する。』

生徒アンケートの「先生たちは、生徒にいていねいに指導している。」と「先生たちは、生徒が相談しやすい。」は共に昨より1.5%上昇しました。特に後者の項目は私が今年度の最重要課題として対応したい項目でした。教師が生徒に優しい心で接し教育的配慮をもった指導を日頃から行っていれば、信頼され生徒が相談しやすいと感じます。学習指導や生活指導において生徒を伸ばしたいと考えることはよいのですが、高すぎる到達レベルを設定することや独自の判断で学習指導要領にはないことを生徒に課すことは、生徒の自主性を妨げて向上心を失わせることにつながります。教職員の意識が生徒や保護者の意識と乖離している結果を真摯に受け止め、生徒の発達段階や個性を理解した指導を行い生徒の心を傷つけてしまうことのないように日々の教育に携わることを教職員に徹底して行きたいと思っております。

【実質の肯定回答率】

教員の「学校としての働き方改革は進んでいる。」 84.2%

生徒の「先生たちは、生徒にいていねいに指導している。」 92.9%

生徒の「先生たちは、生徒が相談しやすい。」 70.6%

保護者の「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」 71.8%

教員の「私(本校)は、子どもや保護者が相談しやすいように努めている。」 85.0%

2 令和7年度の本校の重点目標について

令和7年度は、本校の重点目標以下のように作成しました。キーワードと評価指標を記載いたします。

(1) 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて

○人権尊重 ○健康・安全 ○人間関係形成能力 ○インクルーシブ教育

【評価指標例】「私は、他者を思いやろうとしている。」(生徒)

「わが子は、他者を思いやろうとしていると思う。」(保護者)

(2) 地域社会と協働した教育の推進に向けて

○カリキュラム・マネジメント ○学び舎の連携 ○自らを律する態度と行動力 ○地域社会と協働した教育

【評価指標例】「私は、富士中生の一員として、地域のボランティア活動に関わりたと思う。」(生徒)

「わが子は、富士中生の一員として、地域のボランティア活動等行っている。」(保護者)

「富士中は地域から愛される学校である。」(地域)

(3) 「キャリア・未来デザイン教育」の実現にむけて

○「せたがや探究的な学び」 ○探求のサイクル ○言語に関する能力 ○キャリア・パスポートの活用

【評価指標例】「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある。」(生徒)

「本校は、子どもの自分の進路や将来のことについて考える授業がある。」(保護者)

(4) 教育デジタルトランス・フォーメーション (DX) の推進に向けて

○タブレット端末の活用 ○「主体的・対話的で深い学び」 ○学習習慣 ○生徒自身による学び方の工夫

【評価指標例】「先生は、課題について、自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中で取っている。」(生徒)

「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にしたい授業をしている。」(保護者)

(5) 「学校における働き方改革」の推進に向けて

○「働き方改革」の促進 ○時間を厳守する習慣 ○授業準備や評価材料の精選 ○部活動地域移行の推進

【評価指標例】「先生たちは、生徒が相談しやすい」(生徒)

「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」(保護者)

「私は、子どもや保護者が相談しやすいように接している。」(教員)